

目標達成計画

事業所：グループホーム ポランの家

作成日：平成 23 年 2 月 7 日

市町村受理日：平成 23 年 2 月 8 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践⇒介護理念・運営理念については毎朝のミーティングをとおし、具体性を示してきたが、スタッフ個人夫々に認識の度合いにバラツキがあり、協働性を必要とするケア上、問題が発生する	まずはスタッフ全員が最低限認識していなければならぬ介護理念・運営理念をとおした実践の中で、このことを身に着けていく	理念を基にした「協働のためのステップ集」を作成しながら、スタッフ全員がそれを見て自己点検をし、スキルアップを図っていく	23年9月
2	10	運営に関して家族等意見の反映⇒について、その機会が少ないため相互理解に「ずれ」が発生する恐れがある	家族等意見の反映についてその機会を多くしケアについての相互理解を深める	アンケートを年2回ほど実施し、家族ニーズを把握し、ホーム通信などをおしてそのニーズにどう応えたか、を掲載していく	23年12月
3	11	運営に関する職員意見の反映⇒どうしても小さな組織であるため、結果的にトップダウン傾向にあり、組織運営が硬直化する危険性がある	創造的な発想がスタッフの共有されるケア運営内容へと変化していくこと	「協働のためのステップ集」を基にチーフ・サブチーフをとおし、自己評価の中で、自分たちの「協働のためのステップ集」となるよう意識改革を図っていく	23年12月
4	13	職員を育てる取り組み⇒年齢差・経験の差等によってケア上、共通の認識にずれが生じ運営上混乱が発生する危険がある	最低限、社会人として、組織人として、福祉人としての共有できるレベルを設定しながら全体的なスキルアップを図っていく	「協働のためのステップ集」を基に自己チェックばかりでなく、相互チェック(全体的モニタリング)を実施できるようにしていく	23年12月
5	14	本人を共に支へ合う家族との関係⇒ご家族には入居者の方の認知症レベルについて十分認識されていない方もいます。このことによって、相互の認識にずれが生じ、三位一体のケアに支障が出る場合があります	入居者の方の現状を理解して頂き、共にケアを考える体制を再構築する	ホーム通信などをおし、今よりも具体的にわかりやすくお知らせしていく。来所された場合はこれらを基に(ケアプランも含め)情報を共有化していく	23年12月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。